

## 令和2年度事業計画

第18回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018)の成功を受けて、国際連携強化を一つの目標として国際対応委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、本学会のプレゼンスを高めるための国際化の推進に向けた活動を進めます。また、年会および部会のサステイナブルな運営ならびに活性化に向け、それらの今後の在り方について議論を深めます。さらに、今後の中期的目標として、日本薬理学会創立100周年を迎える2026年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。

学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に経費の節減を目指すとともに会員サービスの向上に努めます。特に、Journal of Pharmacological Sciences(JPS)の国際誌レベルアップを一層進めてまいります。

財政につきましては、経費削減努力を継続し、その一環として事務局体制を外部委託とし、2020年度以降もこの体制を継続して、将来も安定した学会運営体制の構築を目指します。他学会との協働ならびに連携についても、可能な限り推進し、学会の活性化とともに経費節減を目指します。

次世代の会の活動の推進、薬理学エデュケーター制度の充実、看護薬理学への対応などの検討を行い、女性ならびに若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでまいります。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 吉岡 充弘

### 1 薬理学研究の進展及び薬理学者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

#### (1) 年会の開催

- ・第93回 日本薬理学会年会 年会長：五嶋 良郎（横浜市立大学大学院医学研究科）  
2020年3月16日～18日 パシフィコ横浜会議センター

#### (2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- ・第142回 日本薬理学会関東部会 部会長：三枝 禎（日本大学・松戸歯）  
2020年6月6日 山崎製パン総合クリエイションセンター
- ・第137回 日本薬理学会近畿部会 部会長：見尾 光庸（就実大学・薬）  
2020年6月20日 岡山ロイヤルホテル
- ・第71回 日本薬理学会北部会 部会長：若森 実（東北大学・院歯）  
2020年9月4日 東北大学大学院歯学研究科
- ・第143回 日本薬理学会関東部会 部会長：山田 充彦（信州大学・院医）  
2020年10月24日 信州大学医学部
- ・第138回 日本薬理学会近畿部会 部会長：川畑 篤史（近畿大学・薬）  
2020年11月14日 近畿大学東大阪キャンパス
- ・第73回 日本薬理学会西南部会 部会長：甲斐 広文（熊本大学・院生命科学）  
2020年11月21日 熊本大学薬学部

#### (3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して3回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座（第93回年会） 2020年3月15日 はまぎんホール ヴィアマーレ  
テーマ：「スポーツとくすりと認知症の予防に向けて」
- ・公開講座（第142回関東部会） 世話人：三枝 禎（日本大学・松戸歯）
- ・公開講座（第143回関東部会） 世話人：山田 充彦（信州大学・院医）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。2020年は部会に合わせて2回の開催を予定している。

(5) 薬理学カンファレンス2020を開催する。第93回年会会期中他1回開催予定。

**2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）**

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2020年刊行予定：142巻1～4号，143巻1～4号，144巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジー）の刊行

- ・2020年刊行予定：155巻1～6号 計6冊

(3) 「医学と医療における日本の薬理学の貢献2020版（仮題）」パンフレットの作成。

**3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）**

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与しているが、第14回選考より、選考対象領域を分けて、年毎に募集領域を公告し、推薦を受け付ける。

- ・第13回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第93回年会会期中の2020年3月17日に行われる。

尾藤 晴彦（東京大学大学院医学系研究科）

『シナプスと核を結ぶ活動依存的神経可塑性メカニズムの解明と可視化』

- ・第14回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第35回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、第93回年会会期中の2020年3月17日に行われる。

北岡 志保（神戸大学 大学院医学研究科・講師）

『精神・神経変性疾患の病態形成に關与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』  
出山 諭司（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室・助教）

『レズルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村 達朗（東京大学 大学院農学生命科学研究科・特任助教）

『食物アレルギーにおけるPGD<sub>2</sub>の役割解明と治療、診断への応用』

- ・第36回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

- ・第24回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式は第93回年会会期中の2020年3月17日に行う。

- ・第25回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第93回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

#### 4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業 (公益目的事業4)

##### (1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

##### (2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

##### (3) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

##### (4) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本医学会連合加盟学会連携フォーラム 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
脳深部刺激(DBS):機能的脳外科領域における解剖・生理・薬理学連携と若手研究者育成
- ・日本生理学会共催シンポジウム 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
精神疾患メカニズム解明に向けた多角的アプローチ～細胞からヒトまで俯瞰して～
- ・日本臨床薬理学会共催シンポジウム 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
薬理と臨床薬理とを1つの舞台に
- ・日本臨床疫学会共催シンポジウム 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
大規模医療データベースを活用した臨床疫学研究による医療や薬剤の評価
- ・日本実験動物技術者協会共催シンポジウム 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜
- ・看護薬理学カンファレンス 2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜

##### (5) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・中国薬理学会共催シンポジウム(JPS-CNPHARS Joint Session)  
2020年3月(第93回年会会期中), パシフィコ横浜

#### 5 薬理学エデュケーター認定制度(その他の事業)

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として、2019年より薬理学エデュケーター認定事業を開始した。2019年に引き続き2020年度も経過措置による申請を受け付ける。

#### 6 その他

##### 1 会員

- ・2019年度末の会員数は2018年度末の会員数4,298名から、若干、減少する見込みである。

##### 2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事、業務執行理事、常置委員会委員長、年会長、次世代の会代表による拡大常務理事会を開催し、様々な課題に取り組み、理事会の業務執行に協力する。

##### 3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し、科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

##### 4 事務局体制について

- ・事務局は一つの在り方として、現在、外部委託により運営されている。